



連載

行列の出来る 医療施設のつくり方

第6回

勝ち残る医療・介護施設であるために。

医療施設設計・デザイン・株式会社ドムデザイン代表
一級建築士・インテリア政府認定デザイナー
戸倉 蓉子

プロフィール
慶應義塾大学病院にて看護師として勤務。病院環境が患者に及ぼす影響の大きさを感じ、心から元気になる病院をプロデュースしたいと建築家に転身。現在は女性だけの建築集団の代表を務め、ホスピタリティの高い人気病院・クリニック・高齢者施設を手がける。

これからの医療・介護の現場はどう変わるのでしょうか。

IT化が進み現場でロボットが活躍する時代になりました。それにより正確なオペ、介護者の肉体的負担の軽減も実現し、さらに自力で歩行困難だった患者さんが介助ロボットで歩けるといような夢のような時代がやってきました。テクノロジーの進む病院や介護施設は話題を呼び患者さんや利用者さんが集まる施設になります。しかし、それに頼りすぎると危険性も忘れてはいけません。いくらテクノロジーが進んでも人間の心あるケアほど上質なものは無いのです。

勝ち残る鍵はスタッフの感性

医療や介護の現場には、瞬間的な判断が要求されます。患者さん、利用者さんのニーズは何か、そのニーズに対してどう応えるのか、言葉に出さなくても表情や雰囲気から読み取って瞬時に判断していかなくてはなりません。仕事は感性のフル稼働。感性の鈍い人は医療の現場に向いていないとも言えるでしょう。

しかし、毎日の業務で見慣れてしまう職場の風景は、感性を鈍らせる危険性があります。ではどうしたら感性を養って行けるのでしょうか。家のインテリアに凝ったり、美術館に頻りに足を運んだりというのいいですが、忙しい毎日ではそう

簡単ではありません。日々時間を過ごす職場を活用するの

が一番です。感性を磨くに大切な3つのポイントを挙げさせていただきます。

①意識する

例えば、通勤の間に赤い物を数えてみましょう。そうすると赤がやたらに目に入ってきます。見ることを意識しないと物事は見えません。玄関のしつらえ、廊下、スタッフルームのあり方、廊下にあるもの、患者さんの周りにあるもの…。例えば、患者さんのベッドサイドにスリッパの左右がバラバラな方向にあたら揃えてあげることができかどうか。それ

もスリッパを意識しないと気付きもしません。

②習慣にする

スリッパを左右揃えることを習慣にすると、揃っていないと気持ち悪くなります。患者さんのバイタルを測った後に必ず揃えて帰るスタッフに患者さんが気づいたらどうでしょう。たとえ気づかなくてもよいのです。自分自身が気持ちよく仕事できることが大切です。

③自分のものにする

スリッパを揃え続けると他のスタッフにも伝染します。すると施設内に血が通ってきます。ひとりの感性が施設全体を良い

と言えるようになるには、通勤時の服装も大切なのではないのでしょうか。例えば、毎日ジャージとTシャツで通勤していたら

介護職はそのように見られます。でもスーツできちんと通勤していたら立派な仕事をしていると見られます。私の施設では通勤時にスーツ着用としています。

そして「職場では、無地であればポロシャツはどんな色でも良いとして各自に任せてます。しかし胸元のボタンは全部閉める。きちんとした印象

が大事だから。」と言います。ユニフォーム代も年間予算を支給しきれいなものを着用できるようにしています。職員は決められた予算で上手に自分の色を選定して職場の環境を明るくしています。(写真4)



写真1:スタッフトイレ



写真2:スタッフトイレ

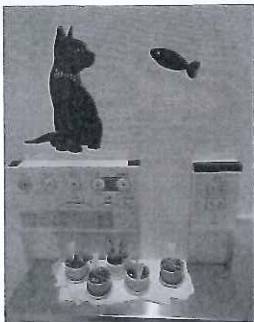


写真3:スタッフトイレ



写真4:ボタンを全部閉める



写真5:額に入れた書



写真6:名画をふんだんに

てみましょう。壁の色を真っ白でなく、オレンジなど元気の出る色を使ってみたり、柄クロスにするとトイレが別空間になります。簡単な方法でウォールシールという壁紙の上から張れるシールもあります。

《事例紹介》

埼玉県東松山市の特別養護老人ホーム「ふるさとの杜かみのもと」さんでは、スタッフトイレのデザインをそれぞれのチームに任せてみました。ウォールシールを使い自分たちでデザインしました。一度デザインに携わってみるとその後レ

ストランに行ったり、素敵なホテルに行ったりした時に意識して見るようになります。見る視点が変わり感性磨きに繋がります。(写真1~3)

②服装を意識する
ある介護のスタッフが、家から車でユニフォームで通勤し、帰りもそれで帰宅するという話を聞きました。これではお洒落をしようという心も養われません。ユニフォーム通勤の落とし穴は大きいのです。

《事例紹介》

埼玉県滑川市にある介護老人保健施設、「いづみケアセンター」の施設長、内田氏の言葉です。「介護職という、待遇が悪い、きつい仕事と見られがちですが、もっと胸をはって介護の仕事をしています

ユニフォーム代も年間予算を支給しきれいなものを着用できるようにしています。職員は決められた予算で上手に自分の色を選定して職場の環境を

③おもてなしのインテリアを意識する

介護施設では、利用者さんの書道や絵画など作品を壁に貼ることが多いと思いますが、どう美しく飾るかが問題です。その方を尊重して額装するなどきちんと飾ることが重要です。

《事例紹介》

「いづみケアセンター」では、書道の作品をお一人お一人額に入れて大切に飾っています。壁はニッチ(窪んだ部分)になっており、照明でライトアップできるようにしています。作品を美しく飾ること、常にもっと良く見せる方法はという努力は感性磨きに繋がるものです。

方向に動かすことになり。スリッパを揃える→ベッド周りの環境を整える→病院・施設が環境が改善される。小さな行動がやがて大きな変化になります。

感性は環境でつくれる

感性磨きは一朝一夕にできることではありません。その人の幼少期から育った環境はとも大きく思います。しかし、働く環境に染まっていくことも事実です。ここで、病院・施設で感性を磨くために役立つアイデアを挙げてみたいと思います。

①スタッフトイレをデザインする
スタッフトイレをデザインし

(写真5) また廊下には名画を飾り、殺風景になりがちな壁面をギャラリーにしています。(写真6)

最後に感性を育て上げるのは病院や施設のトップ次第だと思います。絵や緑が一本もない施設では感性が磨かれるはずありません。大切なのは壁紙がはがれたらすぐ直す、汚れたらすぐきれいにする。気づきの心と行動です。生き残る病院、施設は、職員一人ひとりの感性が優れている施設ともいえます。感性を育てることを日々の業務環境の中で意識してみてください。

お付き合いいただきました。またお目にかかれますのを楽しみに御施設のますますのご発展を祈念いたします。